

農とは生き方



4月24日(土)に、山形県高島町の自然栽培農家の
中川吉右衛門さんにたけの子の親の学びの場にお越し
いただき、お話を伺いました。

吉右衛門さんは「人生を愉しむ百姓」として、国内外
にファンをお持ちの農家さん。せっかくの機会なので、内
部の学びの場をオープンにして外部からもリアル＆オン
ラインでご参加いただきました。

対談相手なのに、メモが止まらないという事態が発
生！母として、ひとりの人間として。その瞬間の気付き
を聞き止めておかずにはられないというほど、濃い時
間になりました。

終了後に、企画をありがとうとございました！と個別に
感想をたくさんいただきました。こんな嬉しいことは
ないです。この学びを循環させていきたいし、これから
も自ら学んで、学びの場を提供していきたいと思ってい
ます。

有機栽培、自然栽培、自然農、天然農法…みなさん、違
いはわかりますか？言葉で説明できますか？ 幼少期
はいつも農家のおばあちゃんの横にいて、園で給食作り
をさせてもらってきた私でも、ちゃんと言語化できてい
ませんでした。

自然栽培以外から何も入れない農法。
自然に寄り添って、その環境を作っていく農法です。

単に無農薬ということではなく、肥料も含めて、何も
入れない。そこに生えている作物、植物、生きている生き
物だけで作物を育てる農法です。

本当にそれで良い作物、良いお米ができるの。作物を
収穫したらその土地から栄養がなくなる、肥料があった
ら良い野菜ができるなど、そう考えてしまう方多いと
思います。

どうしてそう考えてしまうのか。それは多くの人が大
前提として、「足りない」という思考があるから。

実際に、日々畑や田んぼと向き合う吉右衛門さんは言
います。そこにすべてある。何もなくならない。それが自
然のメカニズムで、地球のメカニズムで、エネルギーは循
環され続けているから。

自然栽培の醍醐味は、「すべてここにある」ということ
を、認識し、理解し、信じること。

この言葉を聞いて、自然栽培の、根本の理論を知ると同
時に、今、私が大切にしている、「ありのまま・自然体」な
生き方にも通じるものを感じました。

また、畑の実践的な話しに及ん
だ際、自然栽培で畑と向き合う
と何が起きているかが分かる。欲
張って育てず、この土地に何があ
っているかどうかをよく観察す
る、というお話もありました。

この言葉を聞いて、子育てと一
緒だな〜と思いました。子は自



ら育つ力を持っている。だから、その子にはどこがあつて
いて、どう育っているかをよく観察する。「子育て」する
より、「子育て」を見守る。またまたできていたとは思わ
ないけど、そんな風に子ども達と生活していけたら、と
改めて思いました。

そして、吉右衛門さんはトークライブ中、何度もこの
言葉を力強くおっしゃっていました。

「僕の生き方僕らの畑、僕の田んぼ」。

つまり、トークライブのテーマである「農とは生き方」
ということですよ。

吉右衛門さんは、ヨットにのり、社交ダンスを踊り、ド
ラムをたたき、最高級ワインもたのしむ。一見趣味に見
えるものを生活の一部として趣味の枠を超えて、全力
で楽しむ、従来の百姓の概念を変えて、自ら百姓人生を
クリエイティブに謳歌しています。

それは、作った人の、生き方が農につながる、つまり、生
き方が作物に、お米にあらわれ、味に出るから。自ら価
値を決め、それに見合う生き方をする。その覚悟、生き
様は会場にいる皆さんが心打たれたメッセージとなり
ました。

最後に、「人生を愉しむ生きてるだけでまるもうけ」
という言葉がありました。

今を生きる事、人生を本気で愉しむこと！
みなさん、できていますか？

私の息子たちは間違いなく全力で今を生きています!!
私も本気で愉しむー
保護者 西垣貴子